

基本施策評価シート

| |
|----------|
| 基本施策最終評価 |
| B |

基本施策通し番号 1

基本施策 結の心あふれる人づくり
 構成施策

| 施策番号 | 施策名 | 施策最終評価 |
|------|---------------------|--------|
| 施策1 | ふるさとに根ざした特色ある学校づくり | B |
| 施策2 | 生涯学習の推進 | A |
| 施策3 | 家庭の教育力、地域の教育力の充実 | B |
| 施策4 | 心豊かな青少年の育成 | A |
| 施策5 | 国際化・情報化社会に対応できる人づくり | B |
| 施策6 | 小中学校等の適正規模化 | A |

成果指標

| 指標 | 内容 | 令和2年度 目標 | 令和元年度末 実績 | 単位 | 令和元年度の成果の検証 |
|-------------------|--|--------------------------|------------------------|----|--|
| 図書館の来館者数 | 図書館の年間延べ来館者数 | 87,500 | 97,555 | 人 | システム入替による長期休館や、新型コロナウイルス感染拡大防止による自粛の影響があったものの、図書館まつりや新たな取り組みにより目標人数は達成することができた。 |
| 公民館講座・教室受講者数 | 各公民館で開催する講座や教室の年間延べ受講者数 | 27,500 | 25,764 | 人 | 新型コロナウイルス感染症防止対策のため、公民館を1か月近く休館したが、講座の内容を吟味し開催したことで、2月までの受講者数は前年度に比べ増加した。 |
| 国際交流講座開催数 | 各公民館や生涯学習センターで開催する国際交流講座の開催数 | 20 | 14 | 回 | 放課後の子供たちの余暇を活用した英語教室や、大人の英会話教室、フランスの家庭料理や遊びを通じた国際理解、アメリカを知る講座等、市民が外国語や異文化に触れる機会を設け、国際理解を深めることができた。 |
| ICT機器の活用率 | デジタル教科書などが配備された学年における授業日数に対するICT機器を活用した日数の割合 | 小学校 100 中学校 100 | 小学校 87 中学校 73 | % | 全小中学校に1クラス分のタブレットを整備し、プログラミング研修会を実施するなど効果的なICT機器の活用についての研究を進めたことで、教員によるICT機器の活用が定着してきている。 |
| 「将来の夢や目標を持っている」割合 | 「将来の夢や目標を持っている」小学校6年生、中学校3年生の割合 | 小学校 100 中学校 100 | 小学校 89 中学校 83 | % | 昨年度より小中学校とも若干減少したものの、夢や志を育む教育や地域と進める体験事業を推進したことにより、ここ数年、小学校では90%前後、中学校では80%以上を維持している。 |

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

| | |
|----|---|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> 近年、地域や人とのつながりよりも、個人の生活を重視する傾向になるとともに、地域における人間関係が希薄になり、地域や家庭が担ってきた人と人とのつながりの中で人を育てるといった機能が弱体化してきている。このため、市では教育理念を掲げ、「結の心」を醸成するために、家庭、地域、学校のそれぞれの教育力の連携を図りながらさまざまな施策に取り組んでいる。 児童生徒数の減少に伴い、学校では適正な集団規模を確保することが困難になってきている。 経済や文化をはじめ多方面で国際化が進んでおり、価値観を理解して共存する「多文化共生社会」に対応できる国際感覚のある人づくりが求められている。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 学校教育では、「ふるさとを知り、ふるさとを創る」活動などを通して、家庭や地域と連携を進める学校づくりが必要である。 学校における適正な集団規模を確保するために、学校再編を進める必要がある。 さらに進展する国際化・情報化社会に対応できる児童生徒の育成と、国際文化や価値観に触れる機会の提供が必要となっている。 生涯学習では、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を地域の中で生かすことのできる仕組みづくりが必要である。 |

社会情勢・市民ニーズの変化

- 道徳の教科化(小学校H30年度、中学校H31年度)や外国語活動の教科化(小学校R2年度)、スマートフォン等の普及や企業等におけるAI導入の進展等により、国際化・情報化社会に対応できる児童生徒の育成が求められ、教育現場からALT配置やICT機器整備充実の要望がある。
- いじめによる事件等が報道される中、保護者、市民の小中学校におけるいじめ事案に対する関心は高い。
- 小中学校の再編については、人口減少が進む中で適正規模化を進めるための統廃合に理解を示す市民が多いものの、地域の核となる学校がなくなることへの不安も多い。

現在の「現状」と「課題」

| | |
|----|--|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> 全小中学校に、1クラス分のタブレット端末を整備した。 24時間対応のいじめのメール相談や臨床心理士によるカウンセリング、いじめに対する情報の共有化などいじめ防止の取り組みを強化している。 公民館で開催する講座や教室は、結の故郷ふるさと教育推進計画にもつづいた、ふるさと教育に力点を置いて実施している。 小中学校の適正規模化のため、平成29年1月に大野市小中学校再編計画を策定した。 県立図書館の新たな取り組みにより、直接県立の本をネット予約し、大野市で受け取る利用者が増えつつある。また、新聞やメディアで紹介された本、映画ドラマ化された本を希望する利用者が増えている。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 人生100年時代の大野市に必要な生涯学習及び社会教育について、ふるさと教育の分野の外、学び直しや、時代に応じた知識や技術の習得、地域の課題解決等広く検討する必要がある。 青年活動推進事業補助について青年活動に参加する人材や、放課後子ども教室事業の安全管理員の人材確保に苦慮している。 策定した小中学校再編計画の見直しを行い、保護者や地域の理解を十分に得ながら、取り組みを進める必要がある。 本に関する情報を多岐にわたり収集し、利用者の多様化するニーズに応じた選書をする必要がある。 |

基本施策の「成果」

| | |
|----|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> 夢や志を育む教育や地域と進める体験事業を推進したことにより、多くの子どもが将来の夢や目標を持つようになった。 いじめ防止対策の強化や学校におけるいじめの早期発見、早期対応等により、子ども達は安心して安全な学校生活を送ることができている。 小中学校の再編について、シンポジウムや意見交換会、アンケート調査を実施するなど計画見直しへの準備を進めた。 |
|----|--|

改善点

- ふるさとに根ざした特色ある学校づくりを進め、ふるさとへの誇りや愛着は培われてきた。今後は、日々の学校教育において地域と連携しながらふるさと教育の充実を図っていく。
- 小中学校再編計画の見直しのために、聴取した意見などを参考に、大野市小中学校再編計画検討委員会を設置して協議を進める。
- 定例公民館長会議等を活用し、人生100年時代における生涯学習のあり方や地域づくりの観点から、地域と共に何が出来るかを考え、具体的な事業を検討する。